S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)
H26年9月10日

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況（2014.9.5 現在）

埼玉県で分離され衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は、2014 年 9 月 5 日現在で 183 株です。一昨年同時期の検出数 58 株、昨年同時期の検出数 106 株と比較して、その増加が続いています。この検出数の増加は、保育所での集団感染事例の影響に加え、散発事例数の増加によるものです。感染者の病型で見ると下痢・腹痛などの症状を呈した有症状者からの分離が 135 株、業態者検便や接触者検便での無症状病原体保有者からの分離が 48 株でした。高温多湿など腸管系感染症の発生しやすい状況が今後も続くことから注意が必要です。

分離されている血清型を表に示しました。O 血清型で見ると例年通り O157 が 164 株と最も多く、次いで O26 が 11 株でした。毒素型では、VT1＆2 が最も多い毒素型で、VT2 ヴァリアント（亜型）である VT2f遺伝子を有する O145 が分離されました。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型（2014.9.5 現在）

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	133
O157:H 検査中	VT1&2	11
O157:H7	VT2	14
O157:H 検査中	VT2	1
O157:H－	VT1&2	3
O157:H－	VT2	2
O26:H11	VT1	9
O26:H－	VT1	2
O103:H2	VT1	2
O121:H19	VT2	2
O145:H 検査中	VT2f	1
O168:HUT	VT2	1
OUT:H－	VT1	1
OUT:HUT	VT2	1
合計		183

（さいたま市検出分を除く）

衛生研究所では、PFGE 法を用いた DNA 切断パターンによる型別を行っています。集団感染事例や家族内感染でのパターン集積以外に、異なる保健所管内での分離株が同一パターンを示す例があり、共通感染源の可能性も考えられますので、注意していく必要があります。今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。